

私たちの日々の生活はいつも楽しいことばかりではなく、時に新しいことに挑戦したり、嫌だと思ふことをやらなくては行けなかったりするときがあります。あなたはそのような時、心を騒がせていないでしょうか。いつも心に神様の平安があるでしょうか。今、もしあなたが不安の中を歩んでいるならば、神様が語ってくださっている言葉でない、別の言葉を神様の言葉と勘違いして受け取っているかもしれません。自分にとって聞きやすい都合のいい言葉や、簡単にあきらめるように仕向ける声にだまされていませんか？その声によって不安のなかを歩んでいませんか。神様の語られる言葉は決してあなたに不安を与えるものではありません。神様はあなたに平安を与えるので心を騒がせてはならないといわれています。しかし私たちはその声にだまされて心を騒がせてしまうときがあります。悪魔は私たちに神様が語られているかのように正しいことを巧妙に語ってくるので、私たちは気をつけなければいけません。やらなければいけないと思いつつもそれができていない現状、結果を目の当たりにし、私たちの心と体の安定を欠かせようとする悪魔は私たちの過去の記憶から弱点をみつけてだましにかかります。それはあなたが神様から祝福されること、あなたが素晴らしい実を残すことを恐れているからです。だから悪魔はあなたの弱いところを攻撃してきます。そして気付かない間に攻撃をしかけ、あなたにとってなにごとで大切な正しいことであるかを分からなくさせます。このように、悪魔はあなたが一番祝福されることを逃させようと働くのです。では、そのような悪い状況に陥らないためにどのようにしたらよいのでしょうか、神様からの祝福を得るためにどのようにしたらよいのでしょうか。

主題は「信仰（信頼）と感謝」です。このメッセージが語られたら、あなたの祝福を逃させようと悪魔はあなたに神様を信じさせないように働いてきます。しかし今回はその予防策も語られています。それが感謝です。信仰がとられない予防が感謝なのです。

信じるということは神様が人に与えてくださった唯一のもので、そしてこのとき重要なのが御霊に満たされているかどうかです。なぜなら御霊は信じさせる霊だからです。私たちは信じられるからこそ、神の平安が与えられるのです。つまり御霊の働きと信仰と感謝はセットなのです。また、聖書で神・御子は男性名詞ですが、御霊は女性名詞で表現されます。御霊は女性のように心を重んじ、いつもあなたと共にいてあなたがいつも元気で平安をもって歩めるように守ってくださる方なのです。

ピリピ4:4-9にあるように、神様はあなたに平安を与えるために日々語られます。それはあなたが楽しく過ごせないときに喜べるように働いてくださるためです。そこで必要なのが感謝です。もし感謝をもって祈りを捧げることができているならあなたは喜べるようになるのです。なぜならあなたの心が守られ神様の平安があなたに与えられるなら、神様に祈ることは必ず叶うとあなたが信じられるようになるからです。

ですからそのために大切なこと、**1. 信頼関係を保つ 信仰（コロサイ2:6-8）**・・・神様がいなければ人は自分が一番かわいいと思ってしまう生き物です。でも間に神様がいれば人と人との間でも信頼関係が保てます。神様との信頼関係を強めましょう。私たちが裏切らなければ神様は御自身から裏切ることは決してありません。そして私たちの心が神様に向けば私たち自身も人を裏切ることはないのです。なぜなら私たちの中にある感謝で心が平安に保たれていると、私たちは世の中の常識や慣習によって物事を行う必要がなく、ただ愛しているからこそ相手に良くしたいと思うからです。そこで信頼関係が生まれるのです。**2. すべてに感謝 必ず良い実（意味）がある（1テサ5:14-19）**・・・あなたの回りにいる人々、特に身近な人に感謝できていますか。感謝の前に文句が出てくることがないでしょうか。そういう人にこそ感謝を表しましょう。1テサにあるこれらのことは御霊を消すことなく信じればできることです。あなたが今まで歩んだ道には全て意味があります。しかし御霊が共におられなければなんの意味もありません。ですから、人や物、ましてや人の作った神々など他のものを頼るようなことはせず、神様を信じると決断したなら大きな実を結ぶまで信じて行いましょう。そうすればあなたは歩んだ道にその意味を見出すことができるでしょう。**3. 御霊が共にいてくださるように！！（ルカ2:25-35）**・・・心が騒ぐとき、私たちはどうでもいいことに力を注いでしまいます。それは目先のことに捕らわれて大切なことを忘れてしまうからです。そのとき私たちにとって一番大切なこと、それは御霊が共にいてくださることです。目にみえる状況、この世の気遣いに捕らわれてはいけません。それは自分にとって悪い状況のときにこそいえます。ダビデにも悪いことをして失敗することがありました。しかしそんなときダビデは詩篇51篇にもあるように「あなたの聖霊を、私から取り去らないでください。」と神様に祈りました。こうしてダビデは神様からたくさんの祝福を受け取りました。ですから私たちもただ、御霊が共にいてくださるように祈りましょう。

最後に、御霊と共に歩むということは、御言葉に歩むということでもあります。日曜日に語られるメッセージ、日々語られることに耳を傾け、特に自分の調子が悪いときこそ感情的にならず御霊に聞きましょう。そうすれば神様は必ず答えてくださいます。神様からの言葉をあなたの宝としてください。神様との信頼関係を取り戻し、御霊と共にいれば、あなたはなにをしたらよいか分かるようになります。あなたが神様に向こうとするならその時点であなたと神様との信頼関係は変わるのです。そして神様に向けばあなたは照らされるのです。あなたのごく近くにあなたの口にあなたの心に神様はいらっしゃいます。ですから、悪魔にだまされて大切なことがなにか、目的を忘れて人を攻めたり自分を貶めたりして自分勝手な道に歩まず、あなたの道を主に委ね、主に信頼し歩みましょう。そうすれば主が成し遂げてくださいます。私たちはすでに新しくされています。過去に足をつこんだまま新しくされたものではありません。『だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。（Ⅱコリ5:17）』とあるとおり、キリストはあなたの過去を一新するため、あなたを素晴らしい道へ導くため十字架にかかられました。

ですからこれから先、何をするときもどんな状況にあるときも御霊が共におられることを忘れず、過ぎ去るものに目を向けず、あなたのすべきことに目を向け、御霊と共に歩いていきましょう。（要約者：金光 瞳）